



横浜市立太尾小学校

学校だより

令和2年度3月号

令和3年2月26日発行

＜ 豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子 ＞

違うことがすばらしい

校長 館 雅之

先日「ハッピータイム」の最後の活動がありました。「ハッピータイム」とは、異学年交流で太尾小で長年行われている活動です。かつては、1年から6年までの全学年で異学年集団をつくり活動をしてきたこともあったようですが、今年度はペア学年による活動を進めました。1年と6年、2年と5年、3年と4年のペア学年で活動を進めてきました。

6年生の教室で1年生が「王様じゃんけん」ゲームを進めていました。この活動の前の週の1年生の授業で私が見た光景です。ハッピータイムに向けて何をしようか話し合っていました。「王様じゃんけんは6年生も楽しめる。」など相手意識をもった発言が聞こえました。

さらに、1年生の教室で実際に動いて確かめどのようにすれば円滑に進むのか考え、試し、修正し、みんなでさらによいものへと活動を練っていました。

そして、ハッピータイムの当日は、さらに活動が深まっていました。じゃんけんをするために並ぶ時にわかりやすいようにと、床にビニールテープで印をつけていました。密にならないということも考えたのでしょうか。このアイデアは、子どもが気が付いたのか、先生がアドバイスしたのかはわかりませんが、当日はビニールテープを貼る作業は1年生が自分たちでどんどん進めていました。

さて、このような異学年交流活動は多くの学校で行われています。思いやりの心、リーダーシップ、あこがれ、多様な人間関係など、この活動のねらいを表す言葉はたくさんあります。今回の活動でもこれらで表せる姿が多く見られたと思います。



そもそも社会は異年齢で構成されています。同年齢のチームで仕事をするという設定はほとんどありません。異年齢の中にあることは実は自然な状態だと言えないでしょうか。

「社会に開かれた教育課程」が求められています。私は学校は社会の縮図であるべきだと思っています。そのような考えから、学ぶ集団の構成についてはまだまだできることがあると考えています。参考まで、次のような提言もなされています。

学校は、(中略)同一学年での学習に加えて、学習履歴や学習到達度、学習課題に応じた異年齢・異学年集団での協働学習も広げていくことができるだろう。

「Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」 Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会

同質性の高い学校・学級空間ではなく、マルチ・エイジのグループ編成、学校種を超えたグループ編成、障害の有無なく混じり合い、多様性ごちゃ混ぜの人間関係の流動性の高い空間が一般的になり、同質性がもたらす相互牽制や相互不安、同調圧力やいじめや空気の読み合い等の問題も払拭する空間になっている。

経済産業省「未来の教室とEdTech 研究会第1次提言～学校教育に期待される具体的変化の例～」

これらに共通することは「違うことが前提」という考えです。人はだれもが個性を持った存在ということです。今年度の最後に「あゆみ」をお渡しします。そこにはお子さんの個性が書かれています。今年度のお子さんの成長したことをそこから読み取っていただければ幸いです。

年度末を迎え、成長の成果が見える時期になりました。形として見えるものはわかりやすいですが、見えないものを見ようとする、感じようとするを大切にいただければと思います。言い換えれば、プロセスを評価するという事です。そのためには、見えないものわかるような対話をする必要があります。この一年を振り返り、お子さんと対話しながら、見えないものを感じ取り、成長を互いに喜んではいかがでしょうか。

見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。 金子みすず 「星とたんぼぼ」より

この一年間、保護者の皆様、地域の皆様には、学校行事、PTA活動、安全な登下校へのご支援等、多くの場面でご理解、ご協力をいただきました。教職員一同心より感謝申し上げます。ありがとうございました。